

「重要政策課題への機動的対応の推進」プログラム

遺伝子組換え技術の国民的理解に関する調査研究

中核機関名:筑波大学

研究代表名:鎌田 博

研究期間:平成20～21年度

【目次】

第1章. 内外におけるGMO研究と理解増進に関する動向調査 (鎌田 博)	
1. 1 我が国におけるGMO研究と国民理解 -----	4
1. 2 諸外国におけるGMO研究と国民理解 -----	6
1. 3 まとめおよび考察 -----	10
第2章. GMOと教育に関する多角的研究 (小野 道之)	
2. 1 学校におけるGMO教育の実態と課題 -----	11
2. 2 教科書とカリキュラムの改善の必要性 -----	11
2. 3 連携の重要性 -----	13
2. 4 教育教材キットの開発と普及の必要性 -----	14
2. 5 サイエンス・アートの可能性 -----	15
第3章. ステークホルダーの意識と行動 (正木 春彦、佐々 義子)	
3. 1 関連するステークホルダー構造 -----	16
3. 2 主なステークホルダーの意識と行動 -----	16
3. 3 まとめおよび考察 -----	21
第4章. 心理学的視点から見た国民のGMO受容の現状と課題 (田中 豊)	
4. 1 GMOに対する国民の態度の現状と問題点 -----	22
4. 2 リスクリテラシーの修得度と受容との関係 -----	23
4. 3 リスクコミュニケーションに関する説明が、信頼や受容に及ぼす効果 -----	24
4. 4 考察と提言 -----	24
第5章. GMOに関する理解増進手法の開発 (佐々 義子)	
5. 1 GMOをめぐる主な理解増進活動 -----	27
5. 2 市民向け食体験を伴う理解増進手法の評価 -----	29
5. 3 まとめおよび考察 -----	31
第6章. GMO理解増進に資する施策の提言	
6. 1 GMOの国民理解のボトルネックと課題 -----	33
6. 2 GMOに対する国民理解増進のための7つの政策提言 -----	33

本冊子は、文部科学省の科学技術総合研究委託事業による委託業務として、国立大学法人筑波大学が実施した平成 20-21 年度「科学技術振興調整費 遺伝子組換え技術の国民的理解に関する調査研究」の成果を要約したものです。